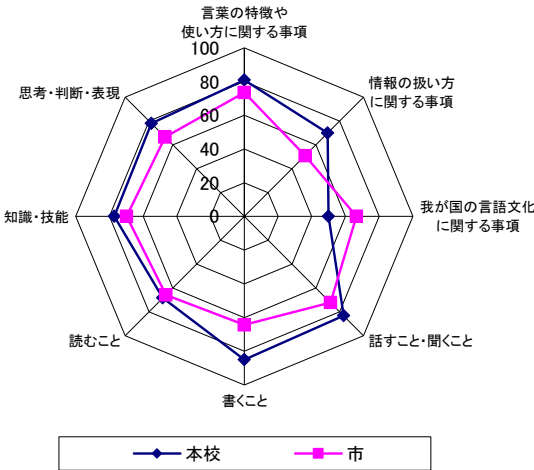


宇都宮市立国本西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.9	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	70.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	83.3	72.3	73.7
	書くこと	85.0	64.3	66.6
	読むこと	68.3	65.8	64.9
観点別	知識・技能	77.1	69.8	70.8
	思考・判断・表現	78.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

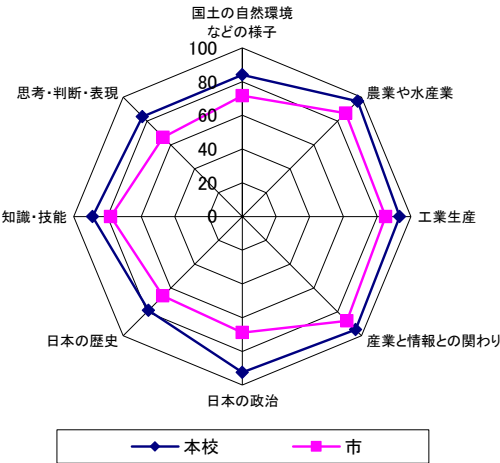
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○領域全体の平均正答率は80.9%で、市の平均正答率を7.4ポイント上回っている。特に漢字の読み書きや熟語の成り立ちについての設問では、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●敬語の使い方について問う設問では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が50.0%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章を書くときに新出漢字や既習漢字を使うよう、指導を継続する。また、同訓異字の意味や使い方を指導する。 ・授業中の感想や振り返りを書く場面、日記を書く場面などでも、漢字を使うことや文のつながりを意識して取り組めるように指導する。 ・日頃から日常生活の中でも敬語を使うことを意識させていく。
情報の扱い方 に関する事項	○領域全体の平均正答率は、70.0%で市の平均正答率を19ポイント上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が60.0%であった。	・文章を読む際に、原因と結果、考えと理由や事例、意見と根拠、全体と中心などを情報と情報の結びつき方を捉えたり整理したりしながら読んでいくよう声を掛け、習慣化できるようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	●領域全体の平均正答率は、50.0%で市の平均正答率を16.5ポイント下回っている。	・言葉の学習の際には、読みや意味だけでなく、和語、漢語、外来語等の語句の由来などについても関心をもたせていく。
話すこと・聞くこと	○領域全体の平均正答率は83.3%で、市の平均正答率を11ポイント上回っている。 ○話の内容を捉える設問と、意図に応じて質問を工夫する設問については、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が60.0%であった。	・話合いの学習を行う際には、様子や視点から検討し、自分の考えを広げたり、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点をまとめたりするよう指導する。 ・インタビューなどで話を聞く際には、話の全体を捉えた上で、自分が聞こうとする意図に応じた内容について注目できるように指導する。
書くこと	○領域全体の平均正答率は85.0%で、市の平均正答率を20.7ポイント上回っている。 ○目的に応じて、指定された長さや構成で文章を書くことができおり、全ての設問で、市の平均正答率を大きく上回っている。	・自分の考えが明確に読み手に伝わるようにするためには、目的や意図によって書き方が変わることを指導し、書き方の工夫ができるようにする。 ・文章を書くときは、自分の伝えたいことをより明確にすることを意識させる。また、推敲する必要性を指導する。
読むこと	○領域全体の平均正答率は、68.3%で、市の平均正答率を2.5ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える設問では、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する設問では、平均正答率は20.0%で、市の平均正答率を15.3ポイント下回っている。	・文章を読む際には、表現の効果を考えることができるようにするために、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現など、様々な表現に着目して読むことを意識させる。

宇都宮市立国本西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	84.0	71.6	69.6
	農業や水産業	96.7	86.7	83.7
	工業生産	93.3	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	95.0	87.7	77.4
	日本の政治	92.5	68.9	71.7
	日本の歴史	78.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	88.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	83.8	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

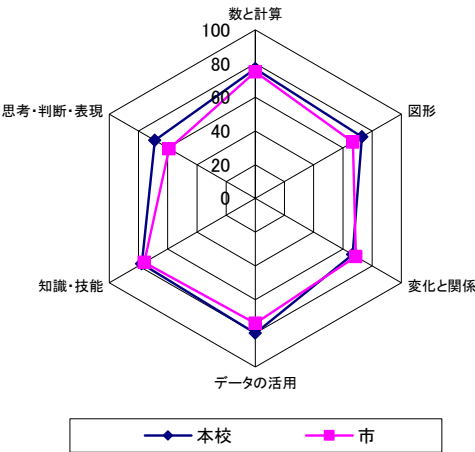
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○領域全体の平均正答率は84.0%で、市の平均正答率を12.4ポイント上回っている。特に日本の主な地形の名称についての設問では、市の平均正答率を大きく上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の国土や自然環境、日本の周辺の国や地形の理解は、社会科の学習を進める上で、基礎的な部分である。今後も様々な単元の学習活動において、地図帳などを活用し、適宜確認させることで、さらに理解を深められるよう指導する。
農業や水産業	○領域全体の平均正答率は96.7%で、市の平均正答率を10ポイント上回っている。	・知識の着実な習得を図るため、さまざまな社会的事象に対して、児童が自ら疑問をもち、探究しながら理解ができるよう指導する。 ・言葉の理解だけでなく、それはどんな取組か、どんなよさがあるか、そのことについての自分の意見まで考えさせることで、思考を深めさせていく。
工業生産	○領域全体の平均正答率は93.3%で、市の平均正答率を8.3ポイント上回っている。 ○自動車の製造過程について理解を問う問題の平均正答率は100.0%であった。 ●工業製品の分類についての設問では、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を12.2ポイント下回っている。	・自動車の製造過程については、安全・正確・効率的に製造するためにどのような工夫をしているのかを、予想したり調べたりすることで、多角的な思考や理解を通して学習内容の定着を図る。 ・工業製品の分類については、身の回りの工業製品を分類する活動を授業に取り入れることで、理解が深まるようにする。
産業と情報との関わり	○領域全体の平均正答率は95.0%で、市の平均正答率を7.3ポイント上回っている。 ●沖縄県での自然環境を守る取り組みについてふさわしいものを選ぶ設問では、平均正答率は70.0%で、市の平均正答率を10.7ポイント下回っている。	・各種資料をもとに産業の様子や現状を捉えたり、国民生活に果たす役割を考えたりする活動を通して、情報が国民生活に及ぼす影響や、それらを活用することが産業を発展させ、国民生活を向上させていることについて考えを深めさせる。
日本の政治	○領域全体の平均正答率は92.5%で、市の平均正答率を23.6ポイント上回っている。	・日本国憲法の基本的な考え方と我々の生活との関係について、資料を基に理解したり、知識を基に考えをまとめたりする活動を通して、基本的な知識の定着を図っていく。 ・国会、内閣、裁判所のそれぞれの役割や日本の政治の仕組みについては、知識が定着している。今後も、国民生活やニュースなどに関連付けながら、より深い定着を図る。
日本の歴史	○領域全体の平均正答率は78.8%で、市の平均正答率を12.1ポイント上回っている。 ●江戸幕府と琉球王国の貿易の窓口となっていた藩を選ぶ設問では、平均正答率は50.0%で、市の平均正答率を13.9ポイント下回っている。	・図や写真などの資料を効果的に児童に提示した上で、学習内容についての疑問や予想を引き出し、それを基に探究活動を行うことにより、歴史的な事象や歴史上の人物の業績などの基礎的・基本的な知識の習得を図る。 ・歴史的な事象同士や歴史上の人物との関連を見いだしたり、歴史的な事象の生じた要因や社会に与えた影響などを整理する活動を通して、歴史的な事象のより深い理解を図る。

宇都宮市立国本西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.0	75.1	75.8
	図形	73.0	66.8	68.3
	変化と関係	66.7	68.8	65.0
	データの活用	80.0	74.1	63.6
観点別	知識・技能	77.7	76.1	75.8
	思考・判断・表現	68.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

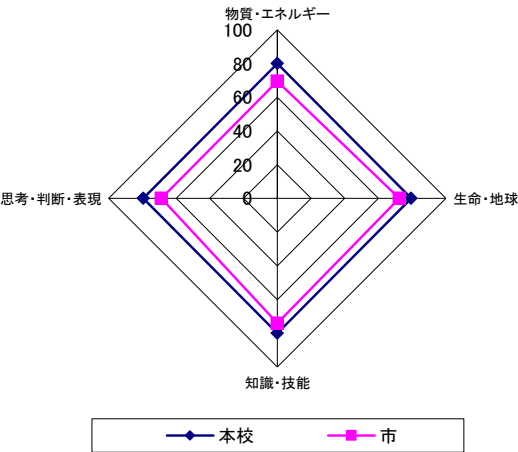
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域全体の平均正答率は、77.0%で市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○文字の式の基本的な計算問題については、市の平均正答率を上回っている。 ○小数倍の文章問題を解くために乗法の立式の設問でも市の平均正答率より高い。	○数と計算の領域の学習内容においては、小数や分数、文字の式の計算に関する学習において、系統性を考えながら復習する時間の確保を図る。特に分数同士のかけ算をしっかりと身に付けられるよう、計算の仕方について既習の学習内容を基に考えさせる。
図形	○領域全体の平均正答率は、73.0%で市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ○面積と体積・対称な図形に関する設問では、全てにおいて市の平均正答率を上回っている。 ●正六角形の作図を基に、円の中心にできる角の大きさを求める設問で、市の平均正答率を12.1%下回っている。	●正六角形の作図の方法を再度確認し、正確に作図できるよう繰り返し指導し、技能の定着を図る。正六角形が正三角形を並べることででき上がっていることを作図をしながら、気付かせるように声掛けをする。
変化と関係	●領域全体の平均正答率は、66.7%で市の平均正答率を2.1ポイント下回っている。 ●基準量と比較量を基に割合を求める問題では、半数が誤答していた。	●割合は、もとにする量(基準量)を1としたときに、比べられる量(比較量)がどれくらいになるかを表したものであることを確認する。また、問題文を数直線に表すことで、数量の関係を視覚的に捉えられるようにする。
データの活用	○領域全体の平均正答率は、80.0%で市の平均正答率を5.9ポイント上回っている。	●ドットプロットのデータから度数分布表に表す問題を繰り返し解き、方法を確認する。また、その数が含まれない「未満」とその数を含む「以下」の違いについて確認し、理解させる。

宇都宮市立国本西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	80.0	69.5	65.2
	生命・地球	79.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	80.0	74.0	70.7
	思考・判断・表現	79.4	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域全体の平均正答率は市の平均を大きく上回っている。 ○ふりこのきまりの設問については3問とも市の平均を上回っている。 ●水に溶けた食塩とミョウバンを取り出す方法の設問については、市の平均正答率を上回っているが、校内の平均正答率は50.0%とほかの設問に比べて正答率が低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・予想が正しい場合や間違っている場合の結果を考える「仮説を立てる」過程を大切に、実験結果まで見通しをもって考えられるようにする。 ・与えられた条件や必要な情報を図やグラフなどから読み取ることができるように、国語や社会、算数などに関連させて分析の方法を身に付けられるようにする。
生命・地球	○領域全体の平均正答率は市の平均を上回っている。 ○植物のつくりとはたらきの設問については3問とも市の平均を上回っている。 ○月と太陽の設問については3問とも市の平均を上回っている。 ●「浸食について理解している」の設問の校内の平均正答率は20.0%で市の平均正答率を大きく下回っている。	・生活場面や実体験をもとに予想を立てたり考えたりできるようにする。 ・観察活動を充実させるとともに、生物や地球の生態をより正確に理解させるためにデジタル教材を活用して、学習する自然事象と扱う言葉が結びつくように指導していき、知識の定着を図る。

宇都宮市立国本西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・思考する活動の充実	・「取り組みたい」「考えたい」と思えるような場を設ける。	・全ての教科で思考・判断・表現の観点での正答率は、市の平均正答率を大きく上回っている。
・自分の考えを表現する活動の充実	・互いに考えを出し合い、集団での試行錯誤を通して、自分の考えを広げ、深めることができる集団の学び合いの場を設ける。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問の肯定割合は75%で、市の肯定割合を上回っている。 ・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の設問の肯定割合は75%で、市の肯定割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・効果的な問い返しや揺さぶりを行ったり、交流活動の工夫をしたりする等、教師のコーディネート力の向上を図る。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた学習活動の充実を図り、自ら見通しを立てたり、自己の学習状況を把握して新たな学習に取り組んだりする力を育成する。